

6 整備方針の策定

6.1 公園全体のコンセプト設定

上位計画、利用実態、公園の課題、公園へのニーズ調査より、公園整備コンセプトを設定する。

＜末山及びくつわ池自然公園のコンセプト＞

宇治田原町の自然の中で五感をフルに使って遊んで学べる体験フィールド

- 子育て世代を中心に、宇治田原町の自然に触れ親しむことのできる場を創出する。
- 季節の移り変わりや年間を通して開催される魅力的なイベントにより何度でも行きたくなるリピート性の高い場を目指す。
- 子供たちの成長過程に応じた様々な体験をチャレンジングに行える場とする。

6.2 再整備基本方針の設定

公園全体のコンセプトを実現するために、公園内の自然環境や既存地形、既存施設を活用し、今後どのように再整備を進めていくのか再整備基本方針と考慮すべき事項を以下のように整理した。

(1) 再整備方針と考慮すべき事項

①自然を満喫できる場づくり

- ・宇治田原町の自然を活かした整備
- ・自然や動植物が身近に感じられる演出
- ・自然を感じる作り過ぎない散策道
- ・周囲の眺望が楽しめる展望機能の充実

②家族や仲間と楽しめる場づくり

- ・子育て世代を中心にお年寄りまで、全ての世代がそれぞれ楽しめる整備
- ・公園利用者がわくわくする演出
- ・子供が自由に走りまわれる広場
- ・長期滞在を可能にする快適性の確保

③集客につながる特色のある魅力づくり

- ・広域からの来園目的となる魅力あるサービス提供
- ・ここでしか体験できない話題性の高いサービス提供
- ・散策路内の新たな魅力の付加

④安全・快適に過ごせる場づくり

- ・安全管理体制の構築
- ・公園内のハザードへの対応
- ・休日、祝日等の多客時への対応
- ・多客時の駐車スペース確保

⑤詳しい情報が入手可能な仕組みづくり

- ・知りたい情報がいつでも得られるシステムの確保
- ・ホームページの充実
- ・町内の他の観光拠点の情報発信
- ・SNS の活用 (リアルタイムの情報を発信)

⑥ソフト展開による魅力確保

- ・宇治田原町特産の「お茶」を活かしたプログラムの展開
- ・年間を通じた多彩なプログラムの提供
- ・季節等に応じた限定プログラムの提供

6.3 再整備に際しての留意点

再整備を進める上で公園全体的に考慮すべき事項を下記に示す。

○何度でも訪れたい魅力・仕組みづくりを考慮する

移り行く季節の変化や、季節の行事、季節の花の見どころを意識して年間利用のリピータ性を確保する。

○整備予定の集団茶園、京都府等と進める「お茶の京都」、民間施設等との連携

お茶の産地を強みとし、町内の既存各施設と連携したプログラム提供する。

○宇治田原町の強みである「日本緑茶発祥の地」のイメージを大切にする

イメージカラーや茶壺のオブジェなど、園内でも日本緑茶発祥の地をイメージさせる設えとし PRしながら整備を検討する。

○効率化による管理費の軽減等の工夫を行う

雑草を抑制する地被類などを活用し、夏場の雑草対策を軽減するなど、新技術も活用しながら再整備を検討する。

6.4 末山及びくつわ池自然公園再整備の基本方針

既定計画における方向性を踏まえ、末山及びくつわ池自然公園の現状と課題、公園の現場管理人から見た課題、及び、公園利用者ニーズから、再整備の基本方針を以下に設定する。

既定方針 計画性	○住民が自然環境に親しみ生物多様性を学ぶ 宇治田原町第5次まちづくり総合計画(平成 28 年3月策定)では、便利で快適に過ごせるまちを目指し、豊かな自然との共生として、森林保全と活用や身近な自然とのふれあい促進等の施策展開を掲げています。 ⇒自然環境を学ぶ機会や活動の場として提供	○子育て世代をターゲットとした定住促進 宇治田原町 まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 28 年3月策定)では、周辺地域よりも充実した子育て施策を宇治田原町の強みと捉えており、子育て世代をターゲットとした定住促進をめざしています。 ⇒子育て世代を中心にターゲットとして設定	○来訪者の多い拠点の観光ネットワーク化 宇治田原町観光振興計画(平成 28 年3月策定)では、「末山及びくつわ池自然公園」「猿丸神社と禪定寺」「永谷宗円生家」を来訪者の多い拠点として位置付け、それらをネットワーク化させ、拡大、複層化することで、宇治田原町の面としての魅力づくりをめざしています。 ⇒宇治田原の自然を感じてもらう観光拠点として整備	○新名神開通、インターチェンジ新設によるアクセス性の向上 平成 35 年に新名神高速道路が全線開通し、(仮称)宇治田原インターチェンジが設置されることから、宇治田原町へのアクセスが飛躍的に向上し、来訪者の大幅な増加が期待できます。 ⇒広域からのアクセスによる利用者の増加への対応
-------------	--	---	--	---

【1】末山及びくつわ池自然公園の利用実態 (1) 近年の利用者数の推移 利用者数は平成 20 年度で下げ止まり、以降は年々増加傾向にある。一方、テニスコート、バンガローは下げ止まったまま横ばいの状況。 ⇒多様な利用者ニーズに対応した施設整備、サービスの提供が必要 (2) 年間の利用状況 入園者数は5月が最も多く続いて9月、10月が多い一方12月～3月の冬季は著しく低下する。 ⇒年間を通じた施設利用を促す施設整備、サービスの提供が必要	【3】末山及びくつわ池自然公園に対するニーズ (1) 利用者の主な目的 町内: バーベキュー・キャンプ・バンガロー 町外(web): ハイキング・森林浴 (2) 公園利用者の重視すべき使い方 レジャー・アウトドア、子供の遊び場、自然の動植物等を学ぶ、スポーツ・運動、宿泊、イベント開催 (3) 知っているが行かない人の重視すべき使い方 レジャー・アウトドア、子供の遊び場、スポーツ・運動、自然の動植物等を学ぶ、イベント開催 (4) 町内で本公園に行かない理由 公園へ行く目的がないから、何があるか知らないから (5) 町外(web)で本公園に行かない理由 公園に行く目的がないから、交通の便が悪いから	【7】再整備の基本方針 ●自然を満喫できる場づくり ●家族や仲間と楽しめる場づくり ●集客につながる特色ある魅力づくり ●安全・快適に過ごせる場づくり ●詳しい情報が入手可能な仕組みづくり ●ソフト展開による魅力確保	【8】考慮すべき事項 ・宇治田原町の自然を活かした整備 ・自然や動植物が身近に感じられる演出 ・自然を感じる作り過ぎない散策道 ・周辺の眺望が楽しめる展望機能の充実 ・子育て世代を中心に小年寄りまで、全ての世代がそれぞれ楽しめる整備 ・公園利用者がわくわくする演出 ・子供が自由に走りまわれる広場 ・長期滞在を可能にする快適性の確保 ・広域からの来園目的となる魅力あるサービス提供 ・ここでしか体験できない話題性の高いサービス提供 ・散策路内の新たな魅力の付加 ・安全管理体制の構築 ・公園内のハザードへの対応 ・休日、祝日等の多客時への対応 ・多客時の駐車スペース確保 ・知りたい情報がいつでも得られるシステムの確保 ・ホームページの充実 ・町内の他の観光拠点の情報発信 ・SNSの活用(リアルタイムの情報を発信) ・宇治田原町特産の「お茶」を活かしたプログラムの展開 ・年間を通じた多彩なプログラムの提供 ・季節等に応じた限定プログラムの提供
【2】末山及びくつわ池自然公園の現状と課題 現地踏査及び公園現場管理人ヒアリングによる課題の抽出 (1) 公園全体 施設の老朽化による魅力低下への対応 園内サインの充実 自然観察ポイントの創出 (2) 散策路・展望台 散策路の崩壊部の補修 展望台周辺の樹木整理による眺望確保 (3) 広場・キャンプ場 多客時に対応した規模の確保 広場、キャンプ場の雨水排水対策・芝生化 (4) 園路・駐車場 多客時の駐車場スペースの確保 管理用園路の舗装化・排水施設設置 車両と歩行者の動線錯綜への対応 (5) 園内建物 バンガロー等の宿泊施設の機能向上 休憩施設(屋根等)の補修・追加 自然公園にふさわしい景観の整理 多客時の宿泊施設の確保 トイレ、給排水設備等の改修	【4】社会情勢・潜在ニーズ (1) 近年の社会情勢 グランピング等に見られる、アウトドアニーズの向上。全国的に既存の関連施設への投資が増加 (2) 町内で本公園を知らない人が重視すべき使い方 レジャー・アウトドア、子供の遊び場、スポーツ・運動 (3) 町外で本公園を知らない人が重視すべき使い方 レジャー・アウトドア、子供の遊び場、自然の動植物を学ぶ	【9】再整備に際しての留意点 ○何度でも訪れたくなる魅力・仕組みづくりを考慮する ○(仮称)西ノ山集団茶園ふれあい交流施設、京都府等と進める「お茶の京都」及び民間等との連携 ○宇治田原町の強みである「日本緑茶発祥の地」のイメージを大切にする ○効率化による管理費の軽減等の工夫を行う ○老朽設備の点検と適切な対応	【6】公園全体のコンセプト 宇治田原町の自然の中で 五感をフルに使って 遊んで学べる体験フィールド
【5】公園管理運営に関する課題 (1) 来園者の増加にも対応した管理体制 (入口、巡回、運営、維持管理等、必要となる人員確保要) (2) 時間外の管理体制 (管理人の常駐体制、夜間及び早朝の利用者の出入制限) (3) 来園者立入りエリアの設定及び施設の安全管理 (大きな危険を伴う場所・施設の確認と対応) (4) 別途管理している釣池に関する課題 (ゴミ対策、園路沿いへの車の駐車等対策)	【9】再整備に際しての留意点 ○何度でも訪れたくなる魅力・仕組みづくりを考慮する ○(仮称)西ノ山集団茶園ふれあい交流施設、京都府等と進める「お茶の京都」及び民間等との連携 ○宇治田原町の強みである「日本緑茶発祥の地」のイメージを大切にする ○効率化による管理費の軽減等の工夫を行う ○老朽設備の点検と適切な対応	【9】再整備に際しての留意点 ○何度でも訪れたくなる魅力・仕組みづくりを考慮する ○(仮称)西ノ山集団茶園ふれあい交流施設、京都府等と進める「お茶の京都」及び民間等との連携 ○宇治田原町の強みである「日本緑茶発祥の地」のイメージを大切にする ○効率化による管理費の軽減等の工夫を行う ○老朽設備の点検と適切な対応	【9】再整備に際しての留意点 ○何度でも訪れたくなる魅力・仕組みづくりを考慮する ○(仮称)西ノ山集団茶園ふれあい交流施設、京都府等と進める「お茶の京都」及び民間等との連携 ○宇治田原町の強みである「日本緑茶発祥の地」のイメージを大切にする ○効率化による管理費の軽減等の工夫を行う ○老朽設備の点検と適切な対応

6.5 利用ゾーニング案の設定

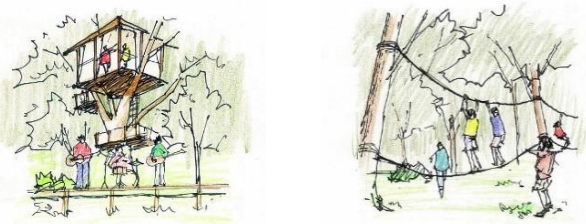
里山活動ゾーン【集客につながる特色ある魅力づくり】

【見る】【聞く】【触れる】

主対象：アクティブな大人と高齢者、子供

＜利用イメージ＞

- ・里山で行われる様々な体験活動の実践のためのエリアで、日常街中では体験できない様々なプログラムに参加できる。
- ・森に囲まれて、思い思いにゆっくりと休憩できる。



森林浴ゾーン【自然を満喫できる場づくり】

【見る】【聞く】【匂う】【触れる】

主対象：森林浴やトレッキングに関心のある大人と高齢者

＜利用イメージ＞

- ・森の香りに包まれながら全国森林浴 100 選に選ばれた散策道を歩きながら宇治田原の自然を体感し、学習できる。
- ・様々な仕掛けを楽しみながら、展望台を目指し散策できる。
- ・森の中でゆっくりと休憩できる。
- ・展望台からの素晴らしい眺めを楽しみ、町の特徴を知ることができる。



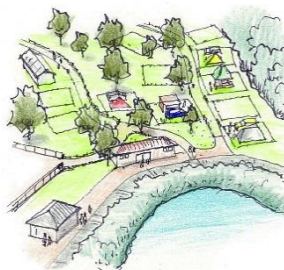
オートキャンプ場ゾーン【家族や仲間と楽しめる場づくり】

【触れる】【味わう】

主対象：宿泊する家族、団体で BBQ する日帰り客

＜利用イメージ＞

- ・ゆったりとくつろげる規模に区画割りしたオートキャンプ場で、快適に BBQ を楽しんだり、テントやバンガローで宿泊できる。

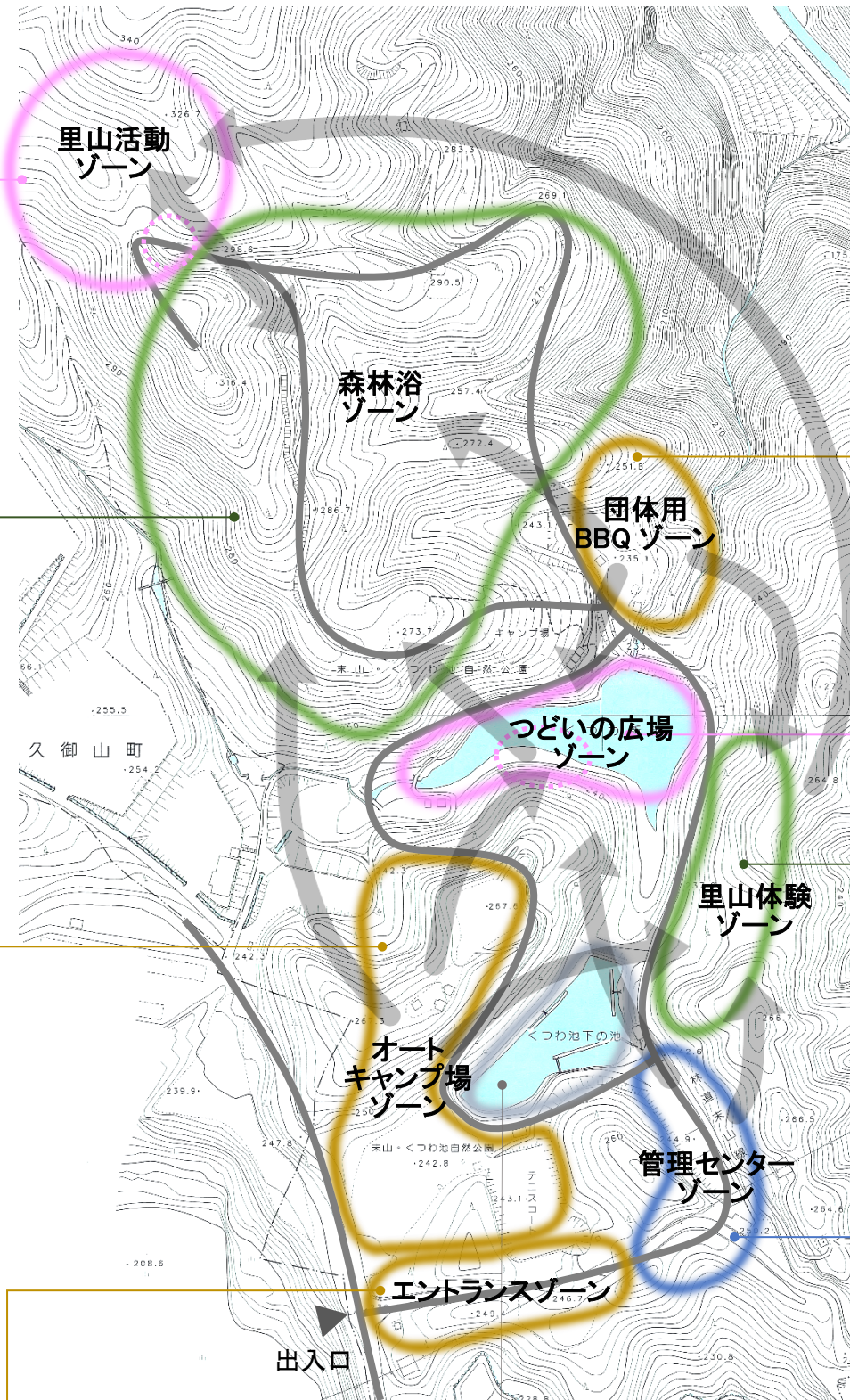


エントランスゾーン【家族や仲間と楽しめる場づくり】

【見る】

＜利用イメージ＞

- ・ウエルカムゲート、季節の花のおもてなしにより公園に到着したわくわく感を感じることができる。



くつわ池下池(釣池)

＜利用イメージ＞

- ・現状は別途管理となっているが、将来的には、くつわ池自然公園の池としての活用を検討する。

団体用 BBQ ゾーン【家族や仲間と楽しめる場づくり】

【触れる】【味わう】

主対象：宿泊する家族、団体で BBQ する日帰り客

＜利用イメージ＞

- ・多客時に不足するオートキャンプ場サイトを補完しながら、集団でにぎやかにバーベキューができる。
- ・緑に包まれながら大勢の仲間や家族とゆっくりと食事を楽しむことができる。



つどいの広場ゾーン【集客につながる特色ある魅力づくり】

【見る】【聞く】【匂う】【触れる】【味わう】

主対象：ゆっくりと過ごしたい大人と高齢者、子供

＜利用イメージ＞

- ・子供たちが広場を走り回り、体を使っておもいっきり遊ぶことができる。
- ・親がお茶を飲みながら子供たちの遊ぶ姿を見守ることができる。
- ・ゆっくりと昼寝ができる。
- ・いろいろな体験イベントに参加できる。



里山体験ゾーン【自然を満喫できる場づくり】

【見る】【聞く】【匂う】【触れる】

主対象：アクティブな大人と高齢者、子供

＜利用イメージ＞

- ・自然に触れながら里山の活動について様々な知識や技術を学習することができる。



管理センターゾーン【安全・快適に過ごせる場づくり】

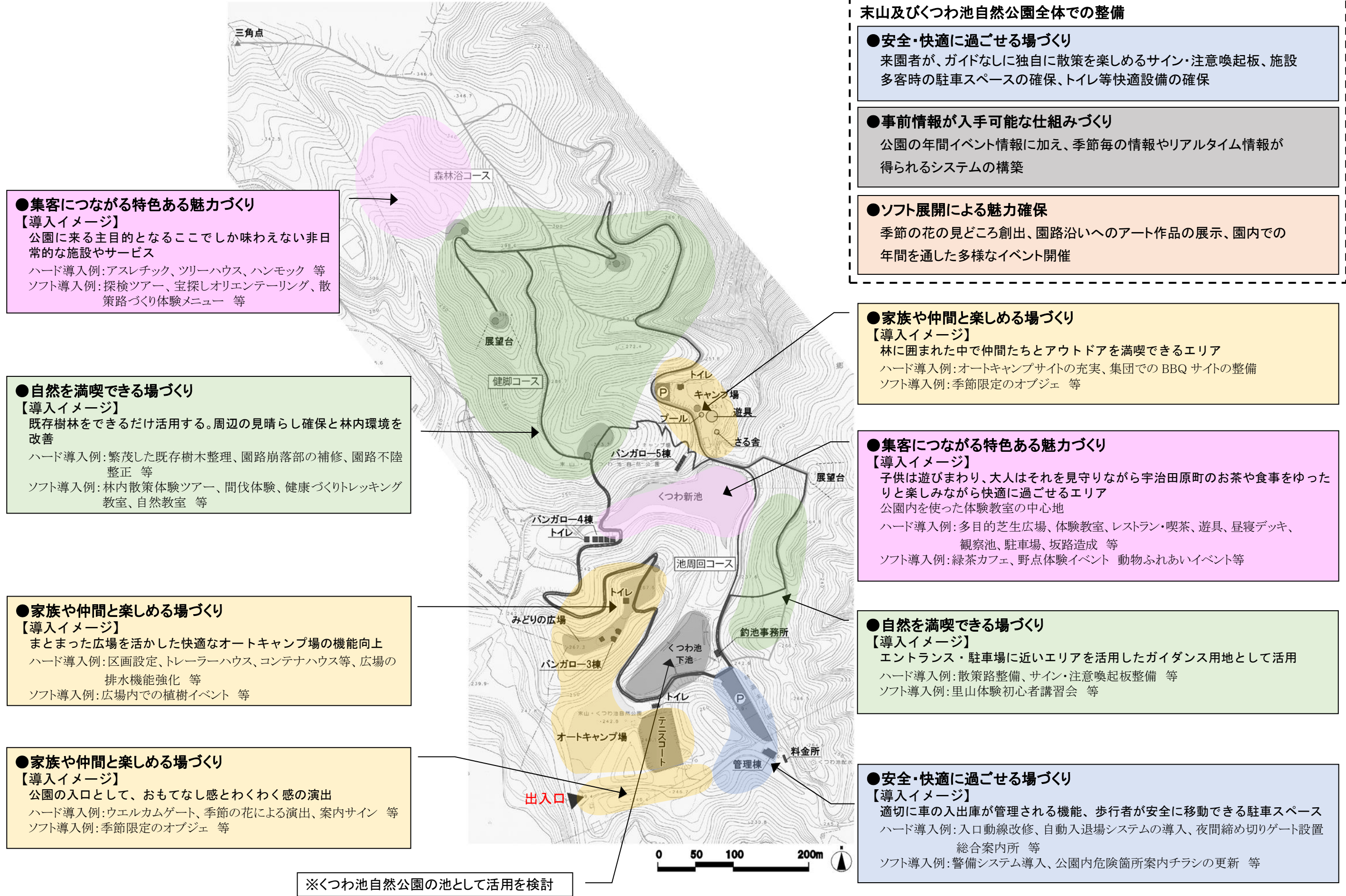
【見る】【聞く】

＜利用イメージ＞

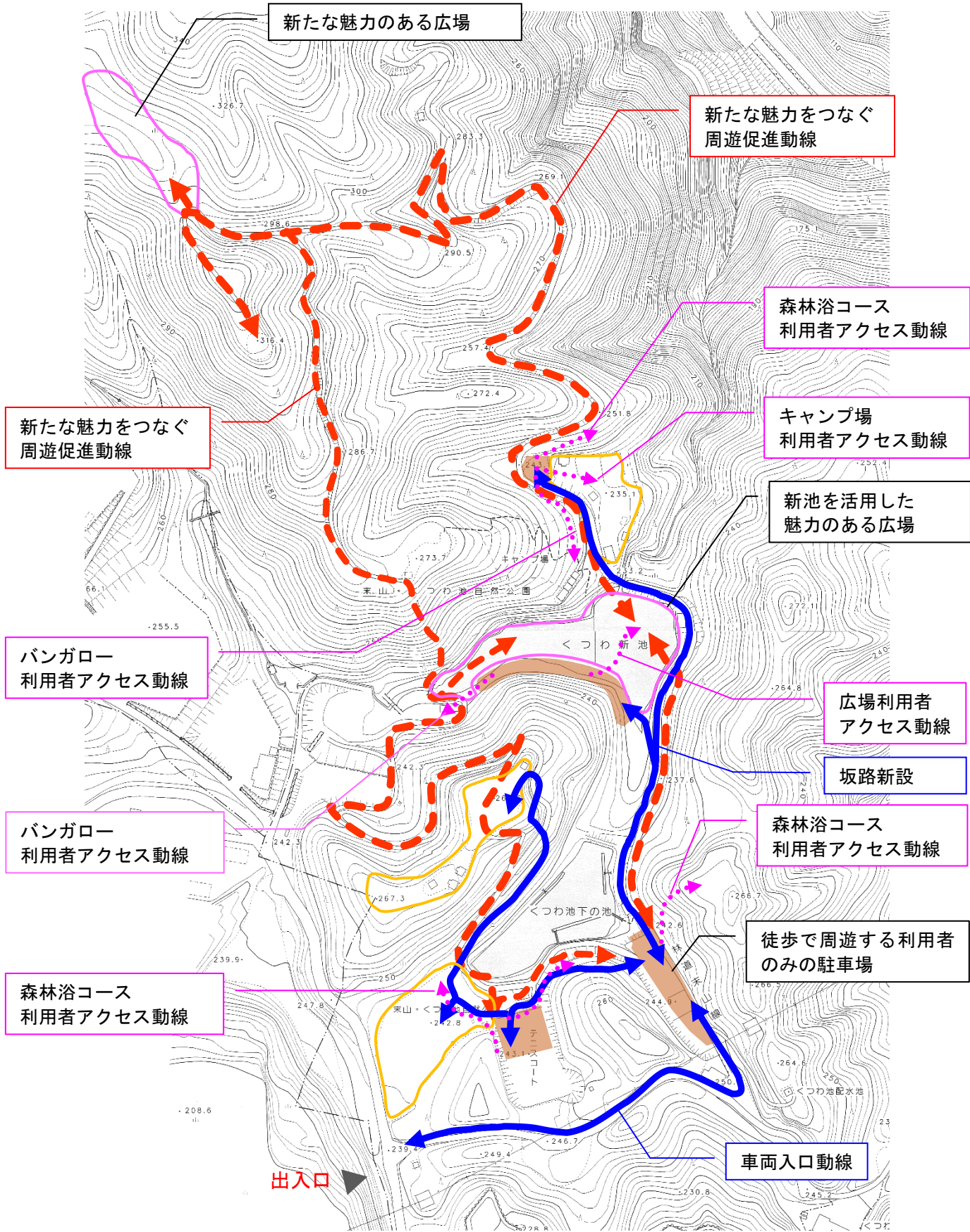
- ・公園の入口で施設案内や季節の見どころ情報を得ることができる。BBQ に必要な備品も借りることができる。



6.6 整備ゾーニング内の配置施設のイメージ



6.7 駐車場からの利用動線



凡 例	名 称	動線上担う役割	備考
	駐車可能スペース	新池の一部とテニスコートの一部を駐車場化し、森林浴コース、各広場、キャンプ場に行きやすい駐車場を設定する。車の少ない日は駐車以外の多目的に活用する。	
	新たな魅力を展開するゾーン	新池を活用した魅力のある広場では、ゆったりと休憩したり、動植物をじっくり観察できる場所を展開する。また新たな魅力のある広場では、森の中でアクティブに遊ぶことができる場所を展開する。	
	オートキャンプ場	多客時のオートキャンプ場の需要に対応した土地利用展開を検討する。外周の道路からの視認性を活かして、トレーラーハウス、コンテナハウス等の特色ある施設で公園の魅力をアピールする。	
	新たな魅力をつなぐ歩行者動線	新たな魅力を南北に配置し、そのルートを強化することにより、公園全体の周遊を促進する。ルートの強化は、案内の充実と動線上の仕掛けの追加を検討する。	
	車両動線	通路を通行する車両が最小となる様に配慮する。新池駐車場への坂路は、可能な限り南側から設置する。	
	駐車場からの歩行者動線	車両の動線と重なる区間には、車両と歩行者に対する注意喚起を実施する。	

現段階で設定したゾーニング案に基づき、検討のための 1 ケースとして整備イメージ図を作成する。

【オートキャンプゾーン】

- オートキャンプ場区画**
 - ・表示杭、区画ロープにて表示
- 多目的広場**
 - ・繁忙期の駐車場利用も可能な広場として利用
- バンガロー**
- シャワー室**
 - ・コインシャワー 男女入口別建築物
- トレーラーハウス等区画**
 - ・トレーラーハウス、コンテナハウス等
 - ※電源引込確保
- オートキャンプ場区画**
 - ・表示杭、区画ロープにて表示
 - ※多客時への対応
- オートキャンプ場内通路表示**
 - ・ロープ柵により、車両通行動線を明示して歩行者の安全性確保

【エントランスゾーン】

- ウェルカムゲート**
 - ・公園名称が表示されたゲート
 - ※施設のコンセプトも明示
- 季節の花修景**
 - ・季節によって入れ換える修景花壇
- 備品倉庫**
 - ・施設可能な大型倉庫を隣接地にて設置
- 料金所**
 - ・大型車(バス等)も進入可能な入口
 - ※夜間の出入りに対応した自動ゲート
- 備品置場**
 - ・目隠し塀で囲まれた資材置場
- 総合案内所・管理室**
 - ・受付、道具貸出し窓口となる建築物
 - ※管理室は部屋を分けて詰所として利用
- 案内サイン**
 - ・園内で統一したデザインによるサイン
- バス駐車区画**
 - ・既存駐車場の活用
- 一般車両駐車区画**
 - ・既存駐車場の活用
- 季節の花木の演出**
 - ・既存植生にも配慮した花木修景





(2) その他の導入施設・サービスのイメージ

今後本公園に導入する施設や提供するサービスのイメージを以下に示す。

- 季節やイベントごとに情報を提供する
掲示板



- 森林コース散策時に既存樹木の名前
や特性を解説する樹名札



- 森林コース手前に杖置場の用意



- 公園内で観察できる野草等の植物
の観察会



- 公園内の池等で観察できる小動物
の観察会



- 公園内の間伐材を活用した様々な
体験イベント



- 動物にふれあうことのできる期間限定
のイベント



- 公園内で遊ぶ道具やアウトドアグッズ
の販売

